

熊本商工会議所・第27回経営動向調査

平成15年3月期結果報告書

業況DI 対前期比 8.5ポイント悪化しマイナス45.9

～消費停滞、売り上げ不調が影響～

調査結果のポイント

全業種の業況DIは対前期比で平成14年12月期の前回調査より8.5ポイント悪化し、マイナス45.9となった。なお、対前年同期比は1.2ポイント悪化しマイナス52.0。

対前期比において業況が改善した業種は2業種。卸売業が前回調査(12月)から13.3ポイント改善し▲40.9。小売業が2.7ポイント改善し▲56.5。いずれも改善されたとはいえ、業況DIは低水準。

対前期比において業況が悪化した業種は5業種。製造業が前回調査(12月)から25.1ポイント悪化し▲45.9。建設業(土木)が15.8ポイント悪化し▲38.9。建設業(職別・設備)は11.8ポイント悪化し、▲30.0。飲食店が36.5ポイント悪化し▲75.0。サービス業が0.7ポイント悪化し▲25.0。

今回の調査では、卸売業、小売業の2業種が改善されたが業況DIは低水準のままであり、飲食店の著しい悪化と合わせて、消費停滞、売り上げ不調を主因として、熊本市内小規模企業全体の業況DIは依然として厳しい状況が続いている結果となった。

調査対象期間 平成15年1月～3月(平成14年度第4四半期)

調査期間 平成15年3月10日(月)～14日(金)

調査対象数 熊本市内小規模企業 292事業所

回答数 181事業所(回答率62.0%)

(小規模企業とは、商業・サービス業では従業員5名以下、それ以外の業種は20名以下の企業)

《産業別回収状況》

調査産業	調査対象数	回答数	回答率(%)
製造業	37	27	73.0
建設業(土木)	22	18	81.8
建設業(職別・設備)	34	20	58.8
卸売業	36	22	61.1
小売業	69	46	66.7
飲食店	23	12	52.2
サービス業	71	36	50.7
合計	292	181	62.0

※ DI値(業況判断指数)について

DI値は、売上高、受注・販売単価、業況などの各項目についての、判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、**強気や弱気など「景気の実感」をそのまま表わすもの。**

DI=(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)

対前期比を主とした産業別概況

全業種

受注・販売単価、仕入単価がほぼ横ばいの中、売上高が大幅に悪化。それにより営業利益も悪化し、全体の業況もやや悪化した。

※全業種における売上高D Iの変化 14年12月期▲19.7⇒15年3月期▲38.7

製造業

仕入単価はやや改善したものの、受注単価の大幅な悪化により売上高が大幅に悪化。それにより営業利益も大幅に悪化し、全体の業況も大幅に悪化した。

※製造業における売上高D Iの変化 14年12月期▲12.5⇒15年3月期▲63.0

建設業（土木）

受注単価がやや改善し売上高も改善したものの、仕入単価の悪化により営業利益も悪化。全体の業況も悪化した。

※建設業（土木）における営業利益D Iの変化 14年12月期▲46.2⇒15年3月期▲50.0

建設業（職別・設備）

仕入単価は若干改善したが、受注単価がやや悪化する中、売上高がやや悪化し営業利益も大幅に悪化。全体の業況も悪化した。

※建設業（職別・設備）における営業利益D Iの変化 14年12月期▲18.2⇒15年3月期▲40.0

卸売業

仕入単価が大幅に悪化し売上高もやや悪化したが、販売単価が大幅に改善され営業利益はやや改善。全体の業況はやや改善した。

※卸売業における売上高D Iの変化 14年12月期▲28.0⇒15年3月期▲36.4

小売業

販売単価、売上高はともにやや悪化したが、仕入単価が若干改善され営業利益はやや改善。全体の業況はやや改善した。

※小売業における売上高D Iの変化 14年12月期▲46.9⇒15年3月期▲50.0

飲食店

仕入単価、販売単価はともに大幅に改善されたが、売上高の大幅な悪化により営業利益は小幅な改善に止まり、全体の業況は大幅に悪化した。

※飲食店における売上高D Iの変化 14年12月期▲23.1⇒15年3月期▲58.3

サービス業

仕入単価がやや悪化する中、売上高、営業利益が大幅に悪化。販売単価はやや改善され、全体の業況は若干の悪化に止まった。

※サービス業における売上高D Iの変化 14年12月期▲5.4⇒15年3月期▲27.8

産業別一覧

上段=対前期比

下段=対前年同期比

業種	今回分 (H14.12月期)	前回分 (H14.9月期)	比較ポイント
製造業	▲45.9 ▲52.0	▲20.8 ▲50.0	▲25.1 ▲2.0
建設業	▲38.9	▲23.1	▲15.8
(土木)	▲44.4	▲41.7	▲2.7
建設業 (職別・設備)	▲30.0 ▲40.0	▲18.2 ▲34.8	▲11.8 ▲5.2
卸売業	▲40.9 ▲52.4	▲54.2 ▲60.9	+13.3 +8.5
小売業	▲56.5 ▲60.9	▲59.2 ▲67.3	+2.7 +6.4
飲食店	▲75.0 ▲63.6	▲38.5 ▲53.8	▲36.5 ▲9.8
サービス業	▲25.0 ▲41.7	▲24.3 ▲35.1	▲0.7 ▲6.6
全体	▲45.9 ▲52.0	▲37.4 ▲50.8	▲8.5 ▲1.2

来期の見通しD I

全産業における来期（平成15年4月～6月）の業況見通しD Iは、マイナス31.7と昨年12月期の前回調査から4.2ポイント改善した。

各産業別の来期の業況見通しは、下の一覧のとおり。

産業別では、前回調査と比べ来期の見通しD Iが改善された業種は、卸売業（2.3ポイント改善し▲23.8）、小売業（24.3ポイント改善し▲30.0）、飲食店（39.4ポイント改善し▲27.3）、サービス業（1.1ポイント改善し▲30.3）の4業種。

前回調査と比べD I値が悪化した業種は、製造業（3.1ポイント悪化し▲36.4）、建設業土木（37.5ポイント悪化し▲62.5）、建設業職別・設備（11.9ポイント悪化し▲16.7）の3業種。

	今回	前回	比較
製造業	▲36.4	▲33.3	▲3.1
建設業（土木）	▲62.5	▲25.0	▲37.5
建設業（職別・設備）	▲16.7	▲4.8	▲11.9
卸売業	▲23.8	▲26.1	+2.3
小売業	▲30.0	▲54.3	+24.3
飲食店	▲27.3	▲66.7	+39.4
サービス業	▲30.3	▲31.4	+1.1
全体	▲31.7	▲35.9	+4.2